

71

『華岡青洲先生及其外科』収載の 「華岡青洲先生春林軒門人録」の期日は入門日である

金谷 桂子¹⁾, 金谷 貢²⁾

¹⁾ 周学館 新潟, ²⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科 生体組織再生工学分野

【はじめに】呉秀三著『華岡青洲先生及其外科』収載の「華岡青洲先生春林軒門人録」(以下「春林軒門人録」)の期日について、松木明知著『華岡青洲の新研究』には、「(「春林軒門人録」からの引用に続いて)右の年月日が入門日か、あるいは免状を得た年月日かは明確にし得ないが、……」(p.151-152)とある。また、同書の別の箇所には、「呉の著書に収載されている「華岡青洲先生春林軒門人録」によれば、下記のようになる。もっともこの期日が正確な入門期日を示すか否か異論もある。」(p.245)とある。

「春林軒門人録」の期日について言及した、松木の著書以降の文献は見あたらないことから、未だ検討の余地が残っていると思われる。今回、この件に関する重要な史料を見出したので報告する。

【「華岡青洲先生春林軒門人録」の期日が入門日であることを示す史料】島根大学医学図書館には華岡青洲門人の大森泰輔・加膳父子が残した史資料が大森文庫として収蔵されている。その中に大森泰輔著『南遊雑記一』・『同二』がある。『華岡流医術の世界』によれば、大森泰輔は最初、合水堂に入門し、一旦帰郷した後、二度目は春林軒に入門しており、春林軒における記録がこれら2冊の雑記である。

その『南遊雑記二』の32丁裏と33丁表(付してある丁番号による)に、11名分の門人録が記されている。それを以下に示す。『南遊雑記一・二』はすでに翻刻されているが(梶谷光弘:古代文化研究2007;(15):161-190,2008;(16):176-208)、ここでは原則として『南遊雑記二』の表記によった。

入門日	出身地	姓名	備考 ^{*1}
1. 天保五年 四月十四日入門	土俣安喜郡安田村	高松涛亭	土佐 安喜多郡安田浦
2. 〃 正月十二日入門	伯俣會見郡下三柳村	高木新仙	伯耆 會見郡下三柳邑
3. 〃 四月十四日入門	筑前御笠郡太宰府	児嶋玄斉	筑前 太宰府, 三月二十三日
4. 〃 三月廿三日入門	同 那珂郡博多	津田仙山	筑前 博多津
5. 右同日入門	常呂茨城郡水戸	朝倉真斉	常陸 水戸小川
6. 〃 二月七日入門	美濃加茂郡鑄物師屋村	早川健造	
7. 天保四年六月十日入門	豊後日出倉成村	小田順亭	豊後 日出倉成村木下大和守内
8. 天保三十一年十月十日入門	備中山手三軒屋	守安孝平	備中 窪屋郡山中三軒屋
9. 天保四 三月二十日入門	筑前下座郡矢野竹村	別府加膳	筑前 下座郡矢野竹村
10. 天保三 六月十二日入門	越後蒲原郡三條	佐藤寛吾	越後 三條
11. 文政九 三月二十三日入門	美濃安八郡津村	安田孝平	安田治三郎(改孝平)

(番号は演者らが付した。期日は3の児嶋を除き「春林軒門人録」と同じ。*1:「春林軒門人録」の表記。備考に出身地等の記述がないものは、「春林軒門人録」の内容が同じ。)

以上のように、各門人の期日の後にいずれも「入門」と記されている。また、これらの期日を「春林軒門人録」の期日と照合したところ、3の児嶋玄斉を除いて同じであった。したがって、当時の春林軒において門人録の期日が入門日と認識されていたことは明らかであり、「春林軒門人録」の期日は、正確さは別にして、入門日と見做してよいであろう。今回、その証拠史料を見出したと言ってもよいのではないと思われる。児嶋玄斉の期日については、どちらかの日付が誤って写されたものと思われる。

上記のように、大森泰輔の筆写した門人録と「春林軒門人録」の内容は非常に似ているので、「春林軒門人録」の原本は、当時春林軒に存在し、泰輔が原本とした門人録と内容的に非常に近い可能性がある。